■ええっ！・・・職員人財育成方針のこと

今年度、多摩市役所職員の人財育成方針の見直しが13年ぶりに行われました。いよいよ多摩市役所にも人財育成と人事評価の仕組みが本格導入されます。

その見直しにあたって、職員アンケートを実施しているのですが・・・そもそも平成14年に策定された「多摩市役所職員人財育成方針」の内容について「あまりよく知らない！」との回答が約50%。

つまり・・・「職員としてあるべき姿」や「めざすべき姿」など目標についてあまり意識していない職員が多いということですね・・・。アンケート結果にいささかビックリ。さらに、このアンケートは、全職員（正職員）と再任用職員に回答を求めたはず…　しかし、回収率も全く振るわずに半分以下。市職員の「人財育成基本方針」への関心のなさとともに、人財育成の成果が上がっていない証でもあるように感じました。

さまざま職員研修なども工夫を重ね、職員の能力開発、力量アップに努めていこうとしているわけですが、それ以前の問題として、「多摩市人財育成方針」の内容に理解者を増やしてほしいものです。

市民の生活を縁の下で支える市役所職員の役割。職員数もスリム化している中、職員一人ひとりのスキル向上は不可欠。

「職員人財育成方針をつくっただけで満足してはいませんか？」を議会で問うてみたいと思います。

【メモ】「みんなで考えよう公用施設の見直しと将来像」多摩市の政策情報誌ご覧になりましたか？夏に続く第2号が全戸配布されています。ぜひ、ご一読いただき、ご感想やご意見ありましたら、お聞かせ下さい！

「ほうれんそう」現在隔月月発行配布にしています。

配布エリアである、**諏訪1丁目一部、2丁目、3丁目の一部、永山2丁目一部、3丁目、4丁目、5丁目、聖ヶ丘2丁目、3丁目一部**には**定期的な配布**を行っています。

※このエリア外にお住まいの方には、ホームページを通じて読んでいただけるように対応をしておりますが、必要があれば随時お届けいたします。

ご相談など随時受け付けております
用件を留守番電話に入れてください！
必ず折り返します。
TEL **042-371-0763**
留守番電話専用

HOURENSOU HISAKA IWANAGA

市議会議員の活動報告
岩永ひさかのほうれんそう

2016年3月号　第131号

報告(ほう)・連絡(れん)・相談(そう)　市政と市民をつなぐ・信頼をつなげる・つながるマガジン　岩永ひさかと夢・まち会議　市議会レポート

2016年年3月号　第131号

市議会レポート
岩永ひさかのほうれんそう

HOURENSOU HISAKA IWANAGA

文章: 岩永ひさか（多摩市議会議員/所属会派: 改革みらい）
多摩市諏訪2-2 B410　ブリリア多摩ニュータウン
TEL/FAX 042-371-0763

ブログ更新中!!
ご意見も随時
募集しております！

ホームページ **http://www.iwanaga-hisaka.net/**

【今月のひとこと】

さあ、今年第一回定例会。所属している改革みらいを代表して、市長施政方針に対する質問（代表質問）を作成しました。代表質問は基本時間が15分に会派の人数×5分を上乗せして発言時間が50分。議員は、予め、質問項目を提出後、当日の市長の答弁を想定した再質問を準備して質問に臨みますが、会派の代表として、市長の答弁を受け、直ちに、再質問をすることはなかなか難しいものです。議員にとって、「質問力」向上はいつになっても課題です。

梅の花。そして満開の桜が楽しみな今日この頃。「お花見したいなあ」「お花見したいねえ」と話題になるのに、早々都合よく私のスケジュールに「桜の開花」があうわけではなく・・・「満開の桜」に合わせて楽しめた学生時代が妙に懐かしい今日この頃です。

2016年3月吉日　岩永ひさか

大事なことを市民にどう伝えるのか。
市民と考える市政運営。再びパルテノン多摩のこと。

「超高齢社会」・・・経験したことのない状況を迎えています。そして、「耳タコ」と言われそうですが、多摩市は世界最速のスピードで高齢化が進んでいます。「今に始まったことではない。」のです。

新しくて古くからの議論でもある少子化、高齢化対策。一体どうなっていくのでしょうか？

市長は「今、まさに、トップのリーダーシップが問われる時代である。」との認識を示していますが、リーダーシップをいかに発揮するのかが注目されます。

岩永ひさかが行った改革みらいの代表質問の答弁において、市長は多摩市の現況に対し、次のように述べました。

「今、本市は、人口減少や急速な高齢化、公共施設の老朽化、街づくりの再生など、時代の転換点とも言える難しい課題に直面し、市民の皆さんとともにそれを乗り越えようとしています。

時に利害関係がぶつかりあう課題もあります。私は、多摩市政を預かる市長として、主権者である市民の皆さんの声にしっかりと耳を傾けながら、市民の代表たる市議会の皆さんとともに、未来を見据えた決断をし、しっかりと説明責任を果たしていく決意です。」

なるほど・・・・「市民の代表たる市議会の皆さんとともに」という点がポイントかもしれませんね。

前回の「ほうれんそう(130号)」にも「会派や政党の壁を乗り越えて、市民の未来のためにどうあるべきか実のある議論を進めたい。」と私の考えを書いたとおり、ますます私たち市議会議員も重責を果たさなければならない時です。

■示されたパルテノン多摩の予算！

なかでも、パルテノン多摩の大規模改修工事に関しては、未来をどう見据えるかが重要。次年度予算では、改修工事の基本計画、基本設計費用のため、約1億6千万円が計上されることとなりました。

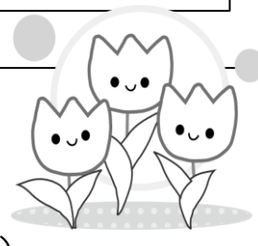
さらに現段階での見積もり総額約58.5億円。これは現状の傷みを最低限補修するための費用であり、例えばユニバーサルデザイン対策、耐震強化の必要性も含めれば、プラスアルファを見込まねばなりません。

そして、平成24年にはいわゆる「劇場法」が制定され、公共ホールには新たな役割が要請されています。公共ホールの使命は何か？という根幹の議論も意識し、今後のパルテノン多摩の在り方を考えていかねばなりません。

現状のまま存続することで市民は本当に納得するでしょうか？私は「なかなか理解を得ることは難しい」と考えています。

多摩市のシンボリックな施設であることは確かであり、知名度もそこそこあります。しかし、多くの市民にとって親しみやすい施設には正直なっていないと思います。

◆多摩市の数字◆多摩市の高齢化率
2016年1月現在　26%
あと10年後は・・・　32%超と試算されています！



多摩市議会主催「春の議会報告会」のおしらせ

4月23日土曜日　19:00～　ベルブホール(永山)
4月24日日曜日　15:00～　関一　つむぎ館(桜ヶ丘)

多摩市議会全体で取り組んでいる報告会です。議員が議会審議の状況など報告をしながら、お集まりいただいた皆さんと意見交換いたします！ふるってご参加ください♪

報告(ほう)・連絡(れん)・相談(そう)　市政と市民をつなぐ・信頼をつなげる・つながるマガジン　岩永ひさかと夢・まち会議　市議会レポート

■公共ホールの可能性を考える ～例えば、可児市の場合

公共ホールが一部の人の趣味のために存在する場所であるなら、私は存続する意義は薄いと考えます。しかし、先にも書いたように「なぜ、公共ホールが必要であるか？」という側面で改めて見つめ直してみることが重要だと思います。

岐阜県可児市の事例を紹介させてください。可児市の公共ホール「文化創造センター」では地元県立高校に向けた演劇ワークショップを実施しています。このワークショップを開催することにより、中途退学者の数が3年間で80人台から3ヶ年で20人台に激減させたという実績があると聞いています。

多額の税金を投入して運営する公共ホールの役割は、単なる「興業」の拠点ではないのです。地域で暮らすすべての人々、子ども、障害者、高齢者の生きる意欲を応援する「文化政策」を推進するための拠点であることが必要とする考えのもとで、徹底的に市民参加と地域づくりを後押ししているのが可児市文化創造センター。 私がパルテノン多摩に求めるのは、今はまだまだ果たされていない役割。しかし、可児市のような市民主体の新たな挑戦の役割を求めないのであれば私はパルテノン多摩に多額の税金をかける必要はないと考えます。

電車に乗って1時間もあれば、パルテノン多摩でなくとも、芸術や文化に触れることは十分に可能。長い目で見て考えてパルテノン多摩の存在が市民にとって欠かせない存在として、地域に根ざすことができるのかどうか。重大な局面に立たされています。そのためにも、パルテノン多摩のありかたについてしっかりと議論していきたい。そのためにも議論するために必要な情報提供の徹底が不可欠です。

オリンピック前にリニューアルオープンさせていきたいという予定があり、とても短期間で取組まねばならない厳しい現状ですが、将来に悔いを残さない新たな展開にしていきたい。私は今後の施設の方向性にしっかりと道筋をつけていきたいと考えています。ぜひ、ご意見をお寄せください。

ひとこと！　岩永ひさかへの問合せ・ご意見をお寄せください！

FAX: 042-371-0763　　Eメール: hisaka_box@yahoo.co.jp

▼このままFAXを送られる方は、お名前、ご住所、連絡先もご記入いただければ幸いです。

お名前　　お電話番号

ご住所

HOURENSOU HISAKA IWANAGA